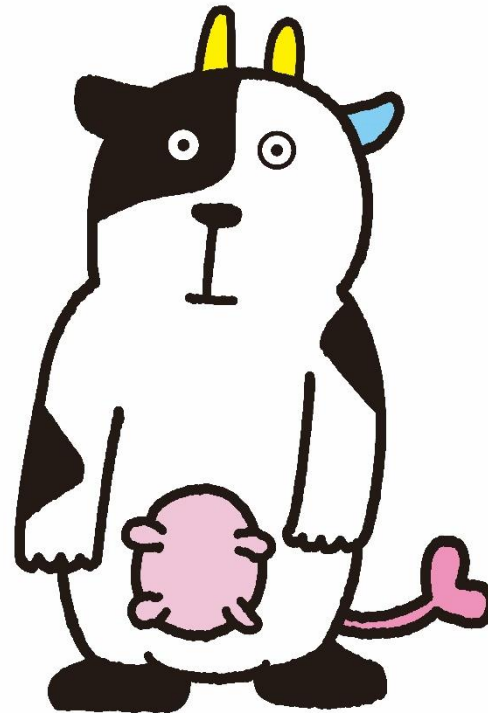


令和元年度 鏡石町教育行政に関する点検評価報告書



ホルスタイン・かがみうし種  
まきぼ

牧場のあーさー♪

## 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)の内容について

### (1)事務事業の評価者

各グループで点検評価し、その後、教育課としての自己評価を行います。

### (2)事業の目的・内容

事業の目的には何のために当該事業を行っているか、事業の内容は目的のためにどのようなことを行っているのか記入してあります。

### (3)実績成果・事業費

- ・実績成果 点検評価対象年度の活動の結果・実績、事業量等が記入されています。
- ・事業費 前年度の決算額及び点検評価対象年度の決算見込額が記入されています。

### (4)事業の評価

- ①必要性 現在の町民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業の必要性があるかどうか、状況の変化に対応しているかどうかを評価します。  
評価点数としては、増加4点、横ばい3点、減少2点、かなり減少1点として評価します。
- ②有効性 施策や運営方針、町で策定した総合計画の目的の実現にどの程度寄与しているかを評価します。  
評価点数としては、十分寄与4点、概ね寄与3点、あまり寄与していない2点、寄与していない1点として評価します。
- ③効率性 事業のコストがかかりすぎていないか、最小の経費で最大の効果を発揮しているかなど、経済性の面から評価します。また、事務作業に無駄がないか、更なる効率化が図れないか評価します。  
評価点数としては、十分できている4点、できている3点、あまりできていない2点、できていない1点として評価します。
- ④達成度 事務・事業の達成状況を評価します。  
評価点数としては、十分できている4点、できている3点、あまりできていない2点、できていない1点として評価します。

### (5)総合評価

各評価項目の評価点数を基に、総合評価のランク付けを行います。

#### ①総合評価のランク

ランク	評価点数	内 容
A	16～14	優れた取組が多く、十分成果が上がっている。
B	13～11	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている。
C	10～ 8	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多い。
D	7～	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要。

#### ②判定説明及び考察

各評価項目の評価結果の総括、今後の課題や抱えている問題点などについて、事業全体の視点から捉えた総合的なコメントが記入されています。

### (6)事業の方向性

上記の評価結果を踏まえて、今後どのように事業を進めるか選択しています。

### (7)教育行政点検評価委員の意見

教育課が評価した結果について「鏡石町教育行政点検評価委員会」にて事務事業評価表を再度確認してもらうことにより、自己評価では気づかなかった点を確認でき、評価の客観性や精度が高まります。

なお、必要があれば事務事業評価表を補正します。

令和元年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

( )は平成30年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見																
				区分	単位	H30年度実績	R1年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察																		
1	適応指導教室運営事業	不登校状態にある児童生徒に対し、カウンセリングや小集団活動を通し、自主性や社会性を高め学校復帰を支援する「若草教室」の運営に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>名称 「若草教室」</li> <li>場所 町保健センター内</li> <li>開設 月曜日から金曜日 9:00～12:00 (変更有り)</li> <li>内容 自主学習・課題学習(自分にあった教科学習)、体験的学習、軽運動やゲーム、その他(清掃、反省等)</li> </ul>	実績成果	小学生入級者	人	0	0	4	3	3	3	13	B	(B)	不登校となった生徒には、若草教室に通級することで、月数回は学校へも行けるようになった生徒がいた。また、在籍しているが、若草教室を利用しないで、学校へ登校できる生徒もみられる。なお、中3の生徒1名は、適切な進路指導の下、高校へ進学した。	継続(継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の評価は継続。</li> <li>家庭、学校との密な連携が必要。</li> <li>若草教室の利用を次につなげる必要性。</li> <li>適応指導教室にも通級できない不登校の児童生徒へのサポートが課題。</li> </ul>														
				事業費	不登校状況:小学校4名 中学校9名 (若草教室入級者除く)	国県支出金	千円													起債	千円			その他	千円			一般	千円	2,671	2,579	合計
2	理科振興事業	小学生の理科教育は、創造性の伸長や自主性が求められるが、理科離れが進んでいることから、ふくしまの科学体験センター(ムシテックワールド)で理科教室を開催し、理科に対する興味・関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ムシテックワールドにおいて、一小・二小の3～6年生を対象に理科教室を開催</li> <li>日時及び対象</li> <li>①11月13日 9:00～11:30 小学3年生対象</li> <li>②11月22日 9:00～11:30 小学4年生対象</li> <li>③11月26日 9:00～11:30 小学5年生対象</li> <li>④11月28日 9:00～11:30 小学6年生対象</li> </ul>	実績成果	理科教室参加者	人	473	481	4	4	3	3	14	A	(A)	新学習指導要領の中では、体験型の理科実験や観察は大変重要視されている。数多くの実験設備や観察環境が整っている「ムシテックワールド」を利用して理科教室を開催することで、児童は学校では得られない貴重な体験を積むことができた。	継続(継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の評価は継続。</li> <li>学校では実施できない実験・体験は重要。</li> <li>児童が考えたテーマや疑問の検証の場として活用。</li> <li>全学年対象で、実施回数の増を検討。</li> </ul>														
				事業費	内容(テーマ)放射線を調べよう、電気を流そう、水と水蒸気、マジックマグネット、サイエンスショー等	国県支出金	千円													起債	千円			その他	千円			一般	千円	635	607	合計
3	学力向上支援事業	児童生徒の基礎学力向上に取り組むため全国一斉実施の「全国学力・学習状況調査」、「ふくしま学力調査」及び町独自の「標準学力調査」を実施、児童生徒の学力経年変化や課題傾向を分析し、学習指導に活用する。また、教職員のレベルアップ事業として、教職員の研修会等を実施し、資質の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎全国学力・学習状況調査</li> <li>対象 小6、中3</li> <li>教科 国語、算数・数学、英語、質問紙(アンケート)</li> <li>◎ふくしま学力調査</li> <li>対象 小4～6、中1～2</li> <li>教科 国語、算数・数学、質問紙(アンケート)</li> <li>◎町標準学力調査</li> <li>対象 小2～6、中1～3</li> <li>教科 小学校(国語、算数、理科、社会) 中学校(英語、理科、社会)</li> </ul>	実績成果	全国学力・学習状況調査	人	242	266	4	3	3	3	13	B	(B)	小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から実施される新学習指導要領による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、町の学力向上会議の際に、分析結果を基にした各校課題の共通理解を図り、学校での指導内容・方法の工夫や改善に取り組んだ。また、学力向上には教職員の資質向上が不可欠であることから、町独自の研修を、講義型から、演習・協議型に改善した。	継続(継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の評価は継続。</li> <li>児童生徒の学力向上の問題点を確認。</li> <li>開示できる範囲での情報公開が、保護者の安心感、学校への信頼感につながる。</li> <li>教職員の資質向上のために、研修会を演習・協議型に変更した点が効果的。</li> </ul>														
				事業費	ふくしま学力調査	人	-	584											標準学力調査	人	1,088	956	教職員レベルアップ研修	回	1	1	国県支出金	千円			起債	千円

令和元年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

( )は平成30年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見				
				区分	単位	H30年度実績	R1年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察						
4	語学指導外国青年招致事業	中学生の英語の語学力向上を目的に語学指導助手を1名招致し、鏡石中学校へ派遣するとともに、国際交流活動として、幼稚園や保育所で幼児英語教育を実施する。また、児童の国際感覚を養うため小学校に外国人講師を派遣し、日常生活の中から外国語に親しむ機会を創設する。	(中学校) 外国語授業・会話の補助、外国語能力コンテストへの協力、外国語教員に対する現職教育への補助等 (地域での国際交流活動) 地域での国際交流活動の一環として、鏡石幼稚園や鏡石保育所を訪問して、幼児向け英語教育を実施。 (一小・二小) 小学校等における英語会話の補助、外国語教育用の教材作成の補助、小学校等における国際理解関係事業の補助、特別活動等への協力、教員研修活動等の補助等 一 週3.5日勤務 二 週1.5日勤務	実績成果	保育所 外国語活動	回	21	21	4	4	3	3	14	A	A	小学校学習指導要領では、令和2年度より、3・4年生で外国語活動、5・6年生で英語科の授業が完全実施されている。また、中学校学習指導要領では、主体的に英語でコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指している。 令和元年度は、小・中9年間の系統性を目指した英語力の一層の充実を図るために、ALTを効果的に活用した授業実践に取り組んだ。	重点化(重点化)	・事業の評価は重点化。 ・国際化が進む中で、英語力は益々重要。 ・外国人講師とのふれあいは、語学力向上に必要。 ・語学授業は、年齢が早い段階から有効。 ・培った英語力を発信する機会が必要。		
				事業費	国県支出金	千円													起債	千円
5	教育支援事業	特色ある学校づくりを推進するため、授業内容により外部の専門的知識や技術を持つ講師を活用し、担任とチームティーチング方式で授業を展開し、児童生徒の興味や関心を喚起する授業を支援する。	・外部講師による支援事業 主な内容 (一小) 合唱指導、合奏指導 (二小) 水泳指導 (中学) 保健指導 (幼稚園) よさこい指導、音楽指導、水泳指導	実績成果	一 小 支援事業	回	17	13	4	3	3	3	13	B	B	特色ある学校づくりのため、各学校で専門的知識や技術を持つ外部講師を招いて各種授業を実施した。 今後も、「学ぶ楽しさ」を味わわせ、子どもたちの学習意欲を育てるため、外部講師をより有効に活用してきたい。	継続(継続)	・事業の評価は継続。 ・専門的知識や技術を持つ講師の活用は有効。 ・子供達の知識、技術の習得のために必要。 ・事業内容や予算増の検討。		
				事業費	国県支出金	千円													起債	千円
6	学校図書館整備事業	小学校・中学校の児童生徒用図書と図書室の整備充実を図る。	・令和元年度整備 (一)小)童話・図鑑等186冊 (二)小)童話・図鑑等114冊 (中学)文学・専門書等153冊 (幼稚園)絵本等77冊 ・町図書館の活用 移動図書館の利用実績 一 小482冊、二 小459冊、 中学校28冊	実績成果	一 小 図書	千円	301	292	4	4	3	3	14	A	A	読書は、子どもたちの創造性を育むとともに、知的活動やコミュニケーションの基盤となる言語に関する能力の育成を図るために非常に重要であることから、今後も計画的に整備していく必要がある。	継続(継続)	・事業の評価は継続。 ・デジタル化の中でも、成長期に本に触れることは大切。 ・読書の楽しさ、魅力を教える工夫が必要。		
				事業費	国県支出金	千円													起債	千円

令和元年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

( )は平成30年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見									
				区分	単位	H30年度実績	R1年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察											
7	情報化教育推進事業	パソコン教室は児童生徒が一人一台利用できる環境になり、教職員にも一人一台配備されている。また、インターネットへ接続できるようになったことからその有効活用を図る。さらに、H21年度整備の学校ICTを活用した授業の展開を図る。	・一小 パソコン端末82台(タブレット端末7台)、プリンター、複合機等のリース及び教育ネット接続 ・二小 パソコン端末58台(タブレット端末7台)、プリンター、複合機等のリース及び教育ネット接続 ・中学校 パソコン端末80台(タブレット端末7台)、プリンター、複合機等のリース及び教育ネット接続 ・電子黒板3台(小中学校各1台)、デジタルテレビ58台(一小28台、二小11台、中学校16台、幼稚園2台、公民館1台)の整備(H21年度)	実績成果	一小平パソコン授業等	時数	1,024	974	4	4	3	3	14	A	A	重点化(継続)	・事業の評価は重点化。 ・情報化社会が進み、ネットワーク等の最新の整備が必要。 ・ICT環境の整備は急務。 ・子供達の学習を守るために、1人1台のタブレット端末の整備が必要。								
				事業費	学校ICT活用状況 デジタル教科書授業、実物投影機による音楽等指導、書画カメラによるノート指導等、教材DVD授業、インターネット学習、進路学習等	国県支出金	千円												起債	千円			その他	千円	
8	通学バス乗車券購入補助事業	第二小学校通学バス乗車券購入費として、旧二小学区1～3年生へ補助する。(通学バス乗車券購入補助金交付要綱)	・旧二小学区1～3年生の児童のうち必要とする児童については、保護者に通学バス定期券を購入いただき、実績に基づいてバス乗車券購入費を学校に補助、学校から実績額を保護者へ交付している。(H22年度から通学バス定期券の学校による一括購入から、保護者購入による実績額交付方法へ変更)	実績成果	通学バス定期券購入者数	人	21	14	2	2	3	3	10	C	B	改善(改善)	・事業の評価は改善。 ・一小と二小の公平性を考慮した事業内容の検討が必要。 ・一小学区でも補助が必要。								
				事業費	通学バス定期券購入者補助金	千円	594	412										国県支出金	千円			起債	千円		

令和元年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

( )は平成30年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見		
				区分	単位	H30年度実績	R1年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察				
9	特別支援教育事業	心身に障がいのある児童生徒を支援するため小学校・中学校へ特別支援教育支援員を配置する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一小 4名配置</li> <li>・二小 3名配置</li> <li>・中学校 1名配置</li> <li>・鏡石幼稚園 3名配置</li> </ul>	実績成果	一小特別支援教育支援員	人	4	4	4	3	3	3	13	B	(A)	支援が必要な園児・児童・生徒に対して、特別支援教育支援員を配置して、授業や生活面の支援を行っており、必要な事業である。また、教育支援員の資質の向上を図るため、合同で研修会を実施している。	継続 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の評価は継続。</li> <li>・特別支援員の充実、教員の多忙化解消と保護者の安心感につながる。</li> <li>・特別支援員の増加の検討が必要。</li> <li>・研修会の効果的な実施による資質の向上。</li> </ul>
					二小特別支援教育支援員	人	3	3										
					中学校特別支援教育支援員	人	1	1										
					幼稚園特別支援教育支援員	人	3	3										
				事業費	国県支出金	千円												
					起債	千円												
その他	千円																	
一般	千円	16,549	15,860															
合計	千円	16,549	15,860															
10	育英資金貸付事業	<p>本町に住所を有する学生にして経済的理由により修学困難と認められる者に対して、育英資金を貸与し、教育の機会均等を図る。</p> <p>・貸付条件 町内に引き続き2年以上住所があり、かつ、学術優秀、品行方正、身体強健の者で、経済的理由により修学困難と認められる者。</p> <p>・貸与額 月額5万円以内(大学)～月額1万5千円以内(高校)</p> <p>入学準備金 30万円～60万円以内</p> <p>※平成23年度に条例改正</p>	実績成果	貸付者(大学)	人	0	0	4	3	3	2	12	B	(B)	<p>国等の給付型奨学金等の制度充実により、町の制度利用の需要がない状況である。</p> <p>なお、令和2年度中に、町の貸付条件の見直し検討を実施する。</p>	改善 (改善)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の評価は改善。</li> <li>・条件の緩和など利用しやすい制度の見直しが必要。</li> <li>・奨学金給付型の検討。</li> <li>・ふるさと納税の利用による基金創設。</li> </ul>	
				貸付者(短大)	人	0	0											
				貸付者(専門学校)	人	0	0											
				貸付者(高校)	人	0	0											
			※新規貸付者のみの実績 (継続貸付者:1名 償還者20名)															
			事業費	国県支出金	千円													
起債	千円																	
その他	千円	5,290		5,289														
一般	千円																	
合計	千円	5,290	5,289															
11	中学生各種検定補助事業	<p>中学生の学習意欲を高め、学力向上につなげていくために、各種検定補助事業を実施する。</p> <p>・対象検定は、英語、数学、漢字</p> <p>・各種検定の受験料の一部を補助。</p> <p>・1人につき年度中2,000円を上限</p>	事業成果	英語検定	人	55	50	4	3	3	3	13	B	平成30年度から実施している事業で、1人で複数の検定を受験している生徒もいる。受験者が、生徒全体の3割程度であるので、中学校と連携して積極的に受験の推奨を進めていきたい。	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の評価は継続。</li> <li>・資格取得が、学習意欲及び学力向上につながる。</li> <li>・中学校と連携して、検定を受講する生徒が増える環境づくりが必要。</li> </ul>		
				数学検定	人	41	31											
				漢字検定	人	125	70											
				延べ人数計	人	221	151											
			実人数	人	133	110												
			事業費	国県支出金	千円													
起債	千円																	
その他	千円																	
一般	千円	266	220															
合計	千円	266	220															

令和元年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

( )は平成30年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見	
				区分	単位	H30年度実績	R1年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察			
12	元気キッズサポーター派遣事業	子どもの運動に対する関心や意欲を高めながら体力向上を図るため、体育の授業等を支援する「元気キッズサポーター」を小学校に派遣する。	・委託先 NPO法人かがみいスポーツクラブ ・委託内容 体育の授業や特別クラブでの先生方の指導の支援(1回当たり1~2名派遣)	事業成果	一 小 派 遣	回		30	4	4	3	3	14	A	平成30年度まで県補助事業で、令和元年度より町単独事業として実施している。かがみいSCから派遣されるスタッフが、学校と連携して体育の授業等で指導をサポートしており、児童の体力の向上が期待できる。	継続	・事業の評価は継続。 ・専門的なサポートにより、体育の興味と体力の向上が期待できる。 ・事業規模の拡大を希望。 ・教育支援事業との棲み分けが必要。
					二 小 派 遣	回		11									
					合 計	回		41									
				事業費	国 県 支 出 金	千円											
					起 債	千円											
					そ の 他	千円											
一 般	千円		496														
合 計	千円		496														
13	学校司書配置事業	学校図書館の円滑な管理運営と利用促進を図るため、学校司書を小中学校に配置する。	・町臨時職員の学校司書1名を、一小・二小・中学校交替で配置	事業成果	学 校 司 書 人			1	4	3	3	3	13	B	令和元年度から実施している事業。小中学校の図書館の整理や利用促進のための展示等を行っており、今後も引き続き事業を継続していきたい。	継続	・事業の評価は継続。 ・専門的な観点から、学校図書館の充実が期待できる。 ・学校図書館の整理や利用促進の工夫が、利用者の増加につながる。 ・学校司書のほかに、ボランティアの活用も必要。
					週当たり配置 一小1日、二小1日、中学校3日												
					国 県 支 出 金	千円											
				起 債	千円												
				そ の 他	千円												
				一 般	千円		2,066										
合 計	千円		2,066														
14	小学校町民プール利用事業	一小的学校プール施設の老朽化に伴い、町民プール「すいすい」を利用して水泳授業を実施する。また、夏休み期間は、児童の体力向上を図るために、町民プールの利用を5回まで無料とする。	・町民プール利用促進 ①水泳授業(一小)大型バスで送迎 ②夏休み(一小、二小)児童1人5回まで無料	事業成果	水 泳 授 業	回		9	4	4	3	3	14	A	令和元年度から実施している事業。一小的の水泳授業は、天候に左右されずに、水質の良い環境で実施できた。また、夏休み期間は、小学生1人当たり2回程度の利用となった。今年度は、全ての小中学校で水泳授業を実施する予定である。	継続	・事業の評価は継続。 ・町民プールの利用は、全ての学校で実施し、送迎費用は町が助成すべき。 ・町民プール利用促進と学校プール維持経費の削減につながる。 ・夏休み期間の無料利用回数の増加要望。
					夏 休 み 利 用 (延べ人数)	人		1,431									
				事業費	国 県 支 出 金	千円											
					起 債	千円											
					そ の 他	千円											
					一 般	千円		1,275									
合 計	千円		1,275														

令和元年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

( )は平成30年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見								
				区分	単位	H30年度実績	R1年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察										
15	家庭教育学級事業	家庭教育は、人間形成の基礎を作る上できわめて重要であることから、家庭における父母の役割についての学習や親同士の交流の機会を提供し、家庭の教育力の向上と活性化を図るため開設する。	委託機関及び教育委員会が選定した家庭教育関係講師及び指導者により、家庭の教育向上に関する講演等を実施。 ・子育て支援音楽会(鏡石保育所) ・教育講演会(第一小学校教養委員会) ・親子ふれあい演奏会(鏡石幼稚園)	実績成果	事業数	件	3	3	4	3	3	3	13	B	B	本事業は家庭教育力の向上は重要な課題であると位置付け実施した。 幼保や小学生の家庭は家庭教育の基盤世代であり、家庭教育力の向上に必要な事業であるため今後も継続して実施する必要がある。	・事業の評価は継続。 ・家庭教育は重要。 ・主催者による保護者の参加促進の工夫。 ・家庭と学校をつなぐ役割の重要性。							
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円			その他	千円	
16	青少年健全育成事業	広く町民の総意を結集し、国・県及び町の施策に呼応して、青少年の健全な育成を図るため実施する。	青少年がその誇りと責任についての自覚を高めるための諸活動、健全な青少年活動を助長、奨励するための諸活動、青少年の非行及び事故防止のための諸活動等を実施する。 ・TPT活動支援(委嘱34名) ・少年の主張鏡石町大会 ・青少年育成に係る標語看板作成 ・スポーツクラブ交流会「ポッチャ大会※」 ※新型コロナウイルスの影響により開催中止	実績成果	少年の主張鏡石大会発表者数	人	15	15	4	3	3	3	13	B	B	小中学生が自ら非行防止活動をするTPTの活動は、須賀川警察署との連携を図り推進しており、毎年内容の充実・参加児童の増加が見られ、一定の成果が見られる。 また、町民の総意を結集し「青少年の健全育成」を図るという点においては、関係諸団体との連携のもと事業を実施することができた。	・事業の評価は継続。 ・子ども自身の発想による活動取組の検討。 ・行政と関係団体の連携強化。 ・家庭、学校、地域一帯の見守りが最重要。							
				事業費	国県支出金	千円												起債	千円			その他	千円	
17	学校支援地域本部事業	地域の人が個々の特性を活かして教育活動を支援することで、地域住民の学習成果活用機会拡充及び地域教育力・地域コミュニティの再生を図り、地域が学校を支援する組織体制の構築を図る。	学校支援事業の効果的かつ円滑な取組を推進するために学校支援地域本部「学校応援団」を設置し事業を実施。 ・地域コーディネーター2名配置 ・学校の要請にもとづく支援 ・ボランティアの募集、研修会の実施 ・事業実施に係る普及啓発・広報活動	実績成果	支援回数	回	143	155	4	4	3	3	14	A	A	コーディネーターを中心に積極的に事業を推進しており、事業をとおり学校と地域の交流や地域住民の生きがいづくりなどの成果を得ている。 平成20年度から継続しており、学校の理解、信頼が深まり、支援回数も依然高いまま推移している。今後も体制の充実や協力団体との連携強化を図りながら、一層の事業推進と持続可能なシステムの構築を図りたい。また、保護者、学校のさらなる関与も期待したい。	・事業の評価は重点化。 ・若い世代のボランティア登録の推進。 ・成果が見られる事業。 ・地域の協力得ながら高齢者とのふれあい事業の推進など積極的な事業運営。							
				事業費	ボランティア数(延べ)	人	536	449										国県支出金	千円	1,237	1,282	起債	千円	



令和元年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

( )は平成30年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見					
				区分	単位	H30年度実績	R1年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察							
18	花いっぱい運動事業	各種団体との協力提携により、鏡石町内の各所に花を植え、心豊かな潤いのある町づくりと連帯感あふれる地域社会の形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会を設置し、行政区・学校及び協力団体の協力を得て、町内各所で花の一齐定植を行い花の管理を行う。(マリーゴールド、ペゴニア、サルビア・ブルーサルビア、ジニア)</li> <li>・表彰(個人、各行政区)</li> <li>・花咲ボランティアへの助成</li> <li>・研修会(事例発表・講話)</li> </ul>	実績成果	一斉定植事業	千円	776	661	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	この運動はコミュニティの形成などにおいて一定の成果は得られている。  プランター方式から露地の花壇を中心とした植栽方式に力を入れるべく、行政区に呼びかけ定植を実施した。	継続 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の評価は継続</li> <li>・高齢者のコミュニケーションなど地域住民の交流の場として重要。</li> <li>・子供たちの定植参加の促進。</li> </ul>				
					苗数	本	22,380	23,610													
					事業費													国県支出金	千円		
					起債	千円															
				その他	千円																
				一般	千円	1,270	1,270														
				合計	千円	1,270	1,270														
19	生涯学習の振興(いきいき学級)	学級生相互の話し合いや、種々の学習・講座などとおして、健康を保ち生活を楽しみ、変貌する生活環境に即して常に新しい知識・技術を習得し、自ら生きがいを発見出すことを目的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鏡石町生涯学習文化協会との連携事業。</li> <li>・年7回のプログラムにより、各種学習を行う。「移動学習(いわき方面)」、西光寺住職による「法話」、「ポッチャ」、「折り紙教室」、「ハーバリウム教室」、「ペーパークラフト教室」、「お楽しみ会&amp;閉級式」</li> </ul>	実績成果	学級生数	人	76	64	4 (4)	4 (3)	3 (3)	3 (3)	14 (13)	A (B)	高齢者が生きがいをを見つけ、精神的な若さと健康が保持できるような事業として継続していく必要がある。 しかし、受講者の中でも高齢化が進み年齢による温度差などを踏まえ、学習計画の編成において実情に沿った運営を行っている。 引き続き受講生の送迎等も工夫しながら進める。	継続 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の評価は継続。</li> <li>・参加者が多く魅力的な事業。</li> <li>・内容や交通手段の工夫。</li> <li>・高齢者同士の集団活動交流活性化の場。</li> </ul>				
					出席率	%	73.0	84.0													
					事業費													国県支出金	千円		
					起債	千円															
				その他	千円	343	296														
				一般	千円	387	481														
				合計	千円	730	777														
20	生涯学習の振興(ジョイフルライフ講座)	最も向学心旺盛な年代の女性を対象に体験学習や社会参加を通して、生活の向上や自己研鑽を図り、豊かな人間性を養う。女性としての資質や能力を高め、明るく健全な家庭づくりや地域づくりに役立つことを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鏡石町生涯学習文化協会との連携事業。</li> <li>・年6回のプログラムにより、各種学習を行う。「トールペイント教室」、「浴衣着付け教室」、「ハーバリウム教室」、「スワッグ作り教室」、「正月花のフラワーアレンジメント教室」、「免疫カアップの食生活料理教室」</li> </ul>	実績成果	受講者数	人	20	20	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	人気の講座であり受講希望者も多いことから、今後も魅力あるプログラムづくりを行い、より充実した事業を展開していく必要がある。	継続 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の評価は継続。</li> <li>・受講者のニーズに即している</li> <li>・人材育成等につながる内容を目指す。</li> <li>・豊かな人間性と家庭づくりに必要。</li> </ul>				
					出席率	%	80.0	71.0													
					事業費													国県支出金	千円		
					起債	千円															
				その他	千円	100	165														
				一般	千円	173	136														
				合計	千円	273	301														

令和元年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

( )は平成30年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見				
				区分	単位	H30年度実績	R1年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察						
21	生涯学習の振興(大人の講座「男性専科」)	日頃社会活動に消極的になりがちな男性に対して、種々の学習などの場を提供し、精神的にも肉体的に個明るく生き生きとした心身共に健康で民主的な社会の一員となることを目指す。	・鏡石町生涯学習文化協会との連携事業。 ・年4回のプログラムにより、各種学習を行う。 「初心者俳句教室」、「かんたん燻製づくり教室」、「ハーバリウム&ブローチづくり教室」、「フラワーアレンジメント教室」	実績成果	受講者数	人	14	22	4	3	3	3	13	B	(B)	平成25年度から男性向けの講座として開設。全6回開催。普段、公民館講座への参加が少ない男性を対象に自発的・自主的な学習機会を提供する。 申込後に、受講生の意見を取り入れながら、事業を行った。 今後は自主的な活動に移行できるような動機付けの工夫が必要である。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・受講者同士の自主活動継続への働きかけ ・男性単独参加型の講座は貴重。 ・社会活動に消極的な男性の交流は重要。		
				事業費	国県支出金	千円													起債	千円
22	社会教育推進事業(青少年教室「アドベンチャークラブ」)	子どもたちの社会性を養うことを目的に集団生活をおとして様々な体験により、子どもたちの興味、関心の幅を広げるとともに多くの自然に触れることにより環境に対する意識の向上を図るため実施する。	・年7回のプログラムにより、体験活動を行う。 「かかし作り教室」、「尾瀬沼探勝」、「絵手紙教室」、「秋の自然観察:五色沼探勝」、「親子料理教室」、「オリジナル箸袋作り教室」、「スキー&スノーボード教室・冬自然観察」	実績成果	受講者数	人	40	102	4	4	3	3	14	A	(A)	青少年の社会教育の場であり、集団生活をおして様々な体験により子どもたちの興味関心の幅を広げることに役立った。 また、青少年の社会教育の場であることから、活動に対する満足度も重要だが、あいさつ等の基本的なマナーを身につけられるような講座運営が必要である。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・学校や家庭で体験できない幅広い知識を身に付ける活動。 ・体験で学習することは人間形成に重要。 ・様々なプログラムなど内容の工夫。		
				事業費	国県支出金	千円													起債	千円
23	社会教育推進事業(まちづくり講座)	個性あるまちづくりの実現に向け、地域のリーダー的な人材を育成することを目的に実施する。	・ガーデニング講座(花画美塾) 年8回のプログラムでガーデニングによるまちづくりの手法を学んだ。 「事業検討会」、「勉強会」、「花壇整備」、「挿し木教室」、「寄せ植え教室」、「挿し木の鉢上げ」、「オランダ祭り会場苗配布」、「視察研修」	実績成果	ガーデニング講座受講者数	人	9	9	4	3	3	3	13	B	(B)	開講以降、積極的に活動しており、目標を持って参加して頂いている。 活動の成果として、図書館駐車場の花壇整備を継続してきた。 令和元年度での事業終了を予定していたが継続となったため、2年度はスタンディングバスケットによる来町者への「おもてなし」と「楽しみ」を提供する。 参加者が地域のリーダーになることを期待したい。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・目標が明確で深い知識技能が習得可能。 ・町づくりのリーダーを担う長期的な人材づくりのための内容の工夫。		
				事業費	国県支出金	千円													起債	千円

令和元年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

( )は平成30年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見	
				区分	単位	H30年度実績	R1年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察			
24	図書館事業	社会教育の中心的施設であるという認識のもと、幼児から高齢者までを対象にした自主事業を行い、地域住民に親しまれ、利用しやすい図書館の運営を図る。	・図書等の貸出(町立小・中学校への移動図書館や町立幼稚園への団体貸出)、小学校でのお話会の開催、図書・視聴覚資料等の計画的購入。 ・読み聞かせ会、子ども映画会、造形教室、人形劇鑑賞会など主催事業の開催。 ・庁内子育て支援事業との連携(ブックスタート事業) ・図書館施設維持管理事業(来館者の田んぼアート観覧スペース拡充のため、4階展示室を改修) ※新型コロナの影響により3月17日(火)~31日(火)まで臨時休館	実績成果	入館者数	人	91,589	69,194	4 (4)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	14 (14)	A (A)	台風19号や新型コロナウイルスの影響により昨年度の図書館の利用状況は前年対比で大きく減少した。 今年度も新型コロナウイルスの影響が同様に見込まれるが、この様な状況下においても、質の向上を図るための事業展開を模索しながら、より町民に親しまれ利用しやすい図書館運営を図っていく。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・館内の利活用による他事業との連携や各種イベントの実施。 ・利用者増のための新刊購入や読み聞かせ事業等の継続的な実施。
				実績成果	図書・AV貸出人数	人	17,915	13,108									
				実績成果	図書・AV貸出点数	点	63,315	49,457									
				事業費	国県支出金	千円											
事業費	起債	千円															
事業費	その他	千円															
事業費	一般	千円	38,081	35,944													
事業費	合計	千円	38,081	35,944													
25	鏡石駅伝・ロードレース大会	唱歌「牧場の朝」のまち鏡石で、「走る」ことにより、健康づくりを推進し、体力の維持向上を目指し、町民が気軽に参加できる大会とする。同時に、広く参加者を求め親睦を深めるため実施する。	・実行委員会を設置し、鳥見山陸上競技場において、駅伝競走の部及びロードレースの部18部門の大会を開催する。 ※台風19号の影響により開催中止 <参考>エントリーの状況 ・ロードレースの部 18部門 ・参加申込者1,759名(うち町内1,010名) ・駅伝競走の部 2部門 参加申込者 68チーム 286名(うち町内11チーム)	実績成果	ロードレースの部参加者	人	1720	-	4 (4)	3 (4)	3 (3)	3 (3)	13 (14)	B (A)	平成26年度から町内小学校の学校行事として小学生全員参加となり、参加者が大幅増となっている。 平成29年度から駅伝部門に3名で参加できる新部門を新設するなど、参加しやすい大会作りを行っている。 今後も運営方法の改善を図りながらスムーズで効率的な実施に努める。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・歴史ある大会の継続。 ・鏡石町を県内外に知らしめる働き。 ・町民の体力づくりへの寄与。 ・小学生の全員参加は大変有効。
				実績成果	駅伝の部参加チーム数	チーム	54	-									
				実績成果	駅伝の部参加者	人	238	-									
				事業費	国県支出金	千円											
事業費	起債	千円															
事業費	その他	千円															
事業費	一般	千円	2,500	1,215													
事業費	合計	千円	2,500	1,215													
26	子ども会対抗親善スポーツ大会	町内における子ども会育成会相互の連絡調整を密にすることにより、子どもの健全育成についての共通理解を深め、あわせて家庭教育並びに社会教育(青少年教育)の振興に資する。	・子ども会育成会連絡協議会と連携し次の事業を行う。 ・子ども会対抗親善球技大会7月28日(日) ・小学生男子(フットサル) 12チーム90名参加 ・小学生女子(ドッジボール) 9チーム69名参加	実績成果	球技大会参加者	人	171	159	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	本事業は子ども会の中心的事業として実施されてきたが、少子化により子ども会会員数が減少し、単位子ども会自体が成り立たないなど事業運営に大きく影響している。 しかし、本事業は子どもの健全育成に加え、親同士の連携や地域づくりに有効なものであることから、実施種目を工夫するなど参加しやすい大会となるよう柔軟に対応していく。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・地区活動の重要な行事。 ・地域の一員として親子での参加の検討。 ・少子化や子ども達の環境の変化に応じた開催内容の検討。
				実績成果	球技大会参加チーム	チーム	22	21									
				事業費	国県支出金	千円											
				事業費	起債	千円											
事業費	その他	千円															
事業費	一般	千円	204	191													
事業費	合計	千円	204	191													

令和元年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

( )は平成30年度の評価

No	事務事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見		
				区分	単位	H30年度実績	R1年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察				
27	総合型地域スポーツクラブ支援事業(NPO法人かがみいしスポーツクラブ)	あらゆる年代の町民が個々のライフスタイルに応じて気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備し、健康の維持・増進を目指す。さらに、スポーツの一層の振興と普及を図ることで、青少年の健全育成や地域コミュニティの再生、豊かな高齢化社会の実現など、活力ある地域社会の確立に資することを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール活動(15団体)</li> <li>・サークル活動(14種目)</li> <li>・健康教室(6種目)</li> <li>・各種教室「HIPHOPダンス教室」、「こども卓球教室」、「ゴルフ教室」など運動系教室。「写経教室」、「ふろしき包み教室」、「大人の座学」など文化系講座。指導者育成のための「ダブルゴールコーチングセミナー」を実施</li> <li>・コミュニケーション促進事業(5事業56回)「大人の山歩き」、「B食ウォーク」など会員相互の交流を図る。</li> <li>・理事会(10回)</li> </ul>	実績成果	会員数	人	639	683	4	4	3	3	14	A	A	町民の健康増進や青少年の健全育成などに大きく寄与していると考えられる。平成24年度には、NPO法人として、活動の幅も広がったことにより、今後もスポーツ振興に寄与できる活動や自立に向けた組織体制づくりなどを進める必要がある。 toto助成金削減、打ち切りによる財源確保の課題や新型コロナウイルスの影響による経営課題について、スポーツクラブと共に検討していく必要がある。	継続(継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の評価は継続。</li> <li>・町民の健康維持増進、青少年健全育成に充分寄与している。</li> <li>・町民自身が好きなスポーツを楽しめる。</li> <li>・自立へ向けた取組や経営運営を希望。</li> </ul>
					教室・イベント	回	38	63										
				事業費	国県支出金	千円												
					起債	千円												
				その他		千円												
				一般		千円	2,400	3,400										
				合計		千円	2,400	3,400										